

グループディスカッション課題

あなたたちは京都府の北部にある「大谷市」において、地域振興策の立案を担当するプロジェクトのメンバーである。このメンバーには、市役所職員と市民が選ばれ、行政と市民それぞれの目線からアイデアを出し合うこととなっている。次に挙げる「大谷市の概要」及び講義内容を踏まえて、人口減少や地方経済の縮小などの課題の解決につながる「ワクワクする地域振興策」を考えなさい。なお、地域振興策は、最初に個人で考えた後に、グループで話し合い、最終的にはグループで3分間の発表としてまとめること。

大谷市の概要と課題

- 京都府北部に位置する人口約1.5万人の地方都市である。
 - 京都市内からは鉄道や自家用車ともに2時間程度かかる。
 - 小学校が5校、中学校が2校、高校が1校あるが、統廃合が進んでおり、生徒の通学距離や通学時間が延びている。人口は30年間で1万人ほど減少しており、高齢化率は約40%となっている。
 - 山間部では田園風景や自然が残っているが、空き家も目立つようになってきている。市街地では伝統的な建造物が残されているが、こちらも空き家や空き店舗が課題となっている。
- ◇ **大谷市の課題①情報・デジタル活用関連**
- 2025年8月に、市の公式LINEアカウントを開設：SNSでの情報発信、乗合交通予約アプリとしての活用、「デジタル回覧板」の導入を予定。しかし、デジタル技術を使いこなせる層と、スマートフォン非所有者や高齢者等の「保有しているが使わない住民」との「情報格差」が懸念されている。
- ◇ **大谷市の課題②地域政策・自治会関連**
- 自治会加入率が低調であり、昨年度のアンケート調査でも「近所付き合いがない」という回答率が最も高く、特に隣近所とのつながりの希薄化が懸念されている。他地域からの移住者は一定数いるが、転居してきた住民に対して自治会や地域活動の周知が不十分なことが課題である。
 - 各地域での伝統的な祭りの担い手が減少しており、住民だけで取り組みは継続困難な状況に。
- ◇ **大谷市の課題③福祉・医療関連**
- 単身高齢者世帯が増加：地域福祉計画に関わるアンケート調査でも、近年はこうした単身高齢者の「閉じこもり」が深刻な課題となっていることがわかっている。子ども・若者の居場所づくりも市の課題として位置付けているが、まだ具体的な取り組みは進められていない。
 - 昨年、山間部の診療所が廃止されたことで、住民の医療へのアクセスも課題となっている。
- ◇ **大谷市の「強み」**
- 2024年から市独自の取り組みとして「ふるさと住民登録」を開始。
 - 市民ではないが、市出身者や市外在住で大谷市にゆかりのある人、二地域居住者、約1,000人が登録。祭りや地域行事、あるいは将来的な移住者として期待されている。

グループディスカッションのスケジュール

- 10:30-10:40 (10分) 個人で「お題」を考える時間
- 10:45-11:25 (40分) グループでの議論・発表資料の作成
- 11:25-11:50 (25分) ディスカッションのまとめの発表 (1グループ3分)